



学校だより 12月号

～豊かで調和のとれた子の育成～

【た】くましく生きる人 【な】かよく生きる人

<https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/tana/>



みのたなくん

「3年ぶり」と「ドーハの歓喜」

校長 大原 敦子

一年で一番日の入りが早い時期になりました。昼間の時間が一番短くなるのは冬至ですが、日の出や日の入りの時刻は、それとはまた違うのですね。東門のそばで子どもたちを見守っている大きなイチョウの木の葉も、だいぶ黄色に色づき、秋の深まりを感じる今日この頃です。

11月19日(土)は、雲一つない秋晴れのもと、「田奈のみり」を実施することができました。これまでの学習の「みり」を発表した1～4年生と、4月から地域の方はじめたくさんの方々のお力をお借りして、育て収穫したもち米を使っての5年生の餅つき。当日は、1、2年生が5年生を応援する姿がとてもかわいくて、心がほっこりと温かくなりました。5年生は、このもち米をどうやってこれまで育ててきたのか「みんなに分かってもらって食べてほしい」という学年の思いを、代表児童が校長室に相談に来たこともありました。そして子どもたちが作り上げたものが、渡り廊下にある掲示物です。給食の時間には、これまでの活動を編集した動画を流し、説明の掲示物とともに、全校の皆に伝わるように工夫していました。お餅を家で食べた子どもたちからの感想も、渡り廊下のポストに毎日たくさん入っています。5年生にとってこの上なく嬉しいメッセージになっていると感じています。そして、この「3年ぶり」となる餅つきの活動を、このようなどとも価値のある活動として子どもたちが体験できたのは、当日のみならず事前の準備から、地域の方々、PTA役員の方々、保護者の方々の多大なご協力があったことだと痛感しています。私たち学校の職員だけでは実現できない活動でした。ご多用の中、気持ちよくお力をお貸しいただいたこと、職員を代表して心より御礼申し上げます。



後期に入って4、5、6年生とも、宿泊を伴う体験学習、修学旅行を実施することができました。こちらも「3年ぶり」となる活動でした。6年生の修学旅行も、ここ2年間宿泊体験学習ができなかったため、小学校生活で初めての宿泊行事でした。つまり、4、5、6年生とも「初めて」の宿泊体験となったわけです。しかし、子どもたちの様子は同じではありませんでした。やはり、6年生は6年間学んできた経験が様々な行動に生かされていました。自分たちの言動を振り返り、よい点も改善すべき点もしっかりと自分たちで気づき行動に表していたところが、本当に素晴らしく、さすが6年生と心から思いました。

また、どの学年にも言えることは、その場に行き実際に風や気温などを肌で感じ、自然の香りを味わい、本物にふれてスケールを感じることで心が揺さぶられる、体験の大きな価値を子どもたちが得たことです。こればかりはインターネットで調べても、オンラインでつながっても得られないものです。前述の餅つきでも、実際に体験して感じた杵の重さや餅をつくときの体に伝わる感覚など、同様のことが言えます。実際に体験する強みがここにはあります。

11月20日からカタールで行われているワールドカップサッカー。ドーハで行われた先日の日本対ドイツ戦、眠い目をこすりながらテレビの前で応援しました。1点を追う展開、相手はドイツ。私は日本が初のワールドカップ出場が目前だったのに最後の最後で逃してしまった「ドーハの悲劇」のときの気持ちを思い出し、この試合に勝つ厳しさを感じていました。しかし後半のものすごいシュートで逆転勝利！夜中にテレビの前で一人喜びを爆発させていました。「ドーハの歓喜」。直接カタールに行きサッカーを観戦したわけではありませんが、「ドーハの悲劇」「ドーハの歓喜」とも、この時に感じた気持ちは私にとっての本物です。

子どもたちの学びのすべてを「実際に体験する」ことだけにすることはできません。実際に体験するよさと、本や映像などで知って感じる心の体験のよさをうまく組み合わせ、これからも子どもたちを育てていきたいと感じた11月でした。

今年も残すところあと1か月です。今月もどうぞよろしくお願いいたします。